





Woody R・P Board 取扱説明書 と ご注意


●Woody R・P Board材の取扱に際し 正しく安全に施工して頂く為、注意マークを設定しました。


 特に注意すべき内容

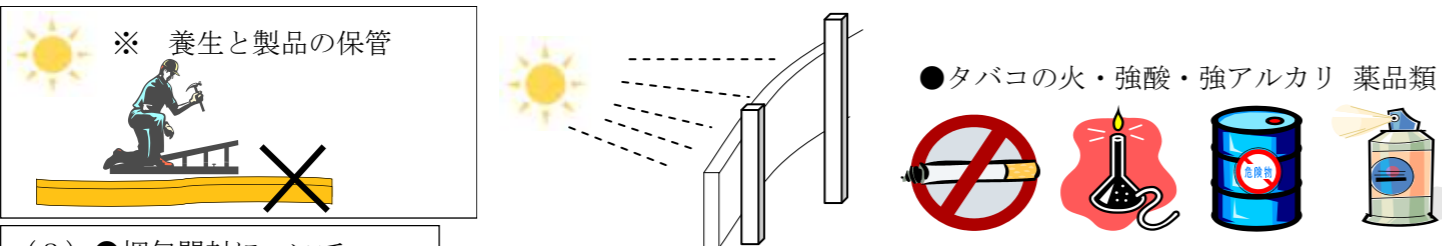
 禁止 してはいけないこと


 アドバイス


施工前の準備と確認  **※Woody R・P ボード 材は外気温の温度差の変化により伸縮する素材です。**


 (1) ●色相について
Woody R・Pボード板は、再生原料を使用しています。ボード本体は天然木と同様の色相の濃淡がありますので、施工時は、板の配置・配色のバランスを見ながらの設置をお願いします。


 (2) ●養生について
施工時に、日なたにボード材を放置しておきますと反りの原因になります。必ず日陰での保管と共に養生しながらの施工をお願いします。特に夏期施工の場合、施工中の板の保管は特にご注意ください。又、Woody R・Pボード材は高熱と溶剤系には弱いので特にご注意ください。




 (3) ●梱包開封について
ボード材を梱包から取り出す時は横から引き抜かないでください、板表面にキズが付いてしまいます。全開封後取り出し。(小さなキズができてしまった場合は、水性の類似色系のペイントにて、キズカクシが可能です。)

 (4) ●製品特性について
Woody R・Pは発泡ポリスチレン樹脂の再生原料を使用しております。アルミ・他金属とは異なりプラスチック素材の為、硬さは柔らかい分類に属します。施工の前後、配送・材料移動、切断加工、ビス打ち等、特に細心の注意を払い作業をお願いします。

 (5) ●接着について
Woody R・PボードとWoody R・Pボードの接合には、プラスチック用接着剤(溶剤系)を御使用ください。但し、使用期間が長期に渡る場合は伸縮により剥がれる可能性があります。その場合、エポキシ系2液タイプを推奨します。


 (6) ●下穴加工処理について
Woody R・P ボード材の穴開け加工は下穴加工処理を基本としています。厚物のボード板に下穴処理をせずにビス打ちを行いますと、樹脂が溶けてゲル状になりビス打ち作業が中断してしまいます。ご注意ください。

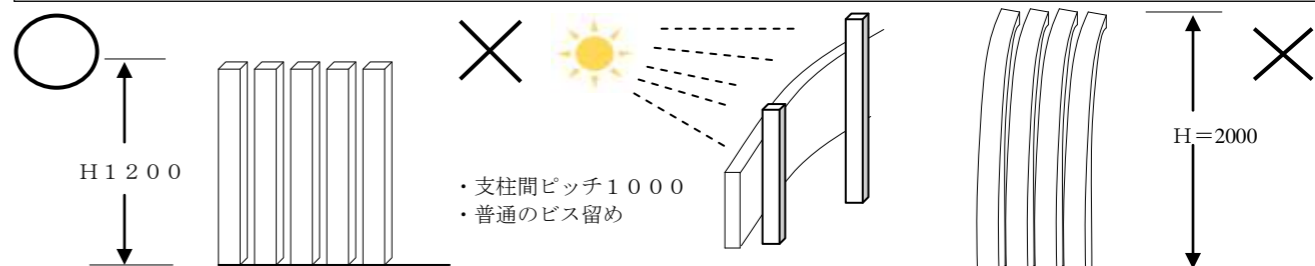
 (7) ●切断と小口処理について
切断にはスライド丸ノコかバンドソー(帯ノコ)が適しています。丸刃は木工用の縦引きタイプかプラスチック用の刃数の少ない(摩擦抵抗が少ない)刃が綺麗に切れます。ボード材の小口処理は、溶剤系(シンナー)を塗布するか、水性スプレーペイントの類似色にて塗布しますと皮膜ができ表層色に近くなり綺麗な仕上がりになります。




角材	板材	板材
20×20	10×40	20×40
30×30	10×100	20×70
40×40	10×200	20×100
50×50	15×30	20×150
70×70	15×50	30×40
	15×85	30×90
	18×150	45×90

※フェンス材料として使用する場合の Woody R・Pボードの ご使用上の注意点

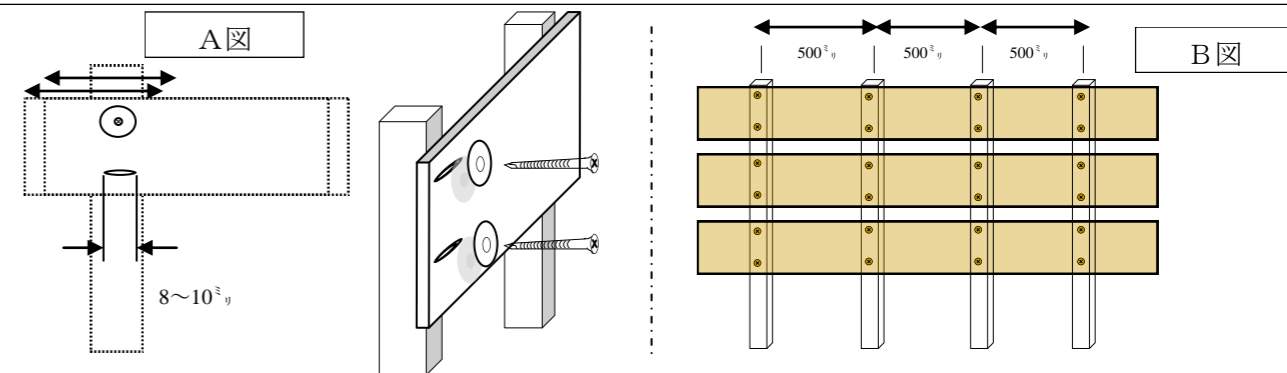
 (8) フェンス支柱材としてR・Pボードの角型材を使用される場合、GLからの高さはH=1200mmまでとなります。1201mm以上を超えますと外気温による本体の伸縮がある為、太陽光のあたる面側が熱膨張により伸びて、反った状態が発生します。クレームの対象とされる場合があります。ご注意ください。外気温が下がると元に戻ります。ボード板材もフェンス材としての使用法は下記A図・B図を参考にお守りください。




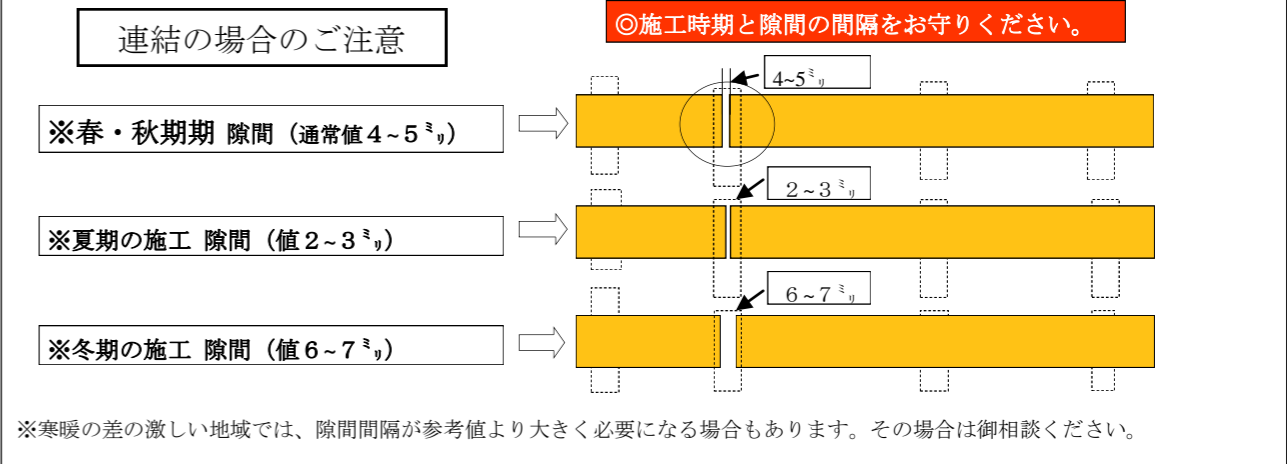
 (9) フェンス板材としてR・Pボードの材を使用される場合、柱ピッチを500mm~800mm以内に設定してください。Woody R・Pボードは外気温の高低差により本体が伸縮します。ビス留め方法は横張り・縦張り共に外気温の高低により伸縮する為、本体が動けるようなビス留め方法をとるか支柱間ピッチを最小にするかをお選び下さい。


A、支柱間隔を800mm以内に設定しビス留め位置を中心として横長穴加工(左右8mm~10mm)を開けます。その後、フェンス板材と類似の色のワッシャーを用いて横長穴を隠すようにしながら緩めのビス留め固定をします。(但し、始めの板部分は不要)


B、支柱間隔を500mmに設定し、支柱ごとにボードをカラーTEXビス2本で固定します。
※Woody R・P施工の場合、必ず上記のA・Bどちらかを選択する事をお願い致します。



 (10) ●Woody R・P ボード材は外気温の温度差の変化により伸縮する為に施工時期により板隙間が異なります。下図の隙間を参考に施工して下さい。



 (11) 弊社では日々製品品質の向上には努力しておりますが、製品受領時(数量確認)と施工前の梱包開封時に必ず品質確認を実施してください。不具合を黙認しての施工終了後の保証はできません。特にご注意ください。

 (12) 製品改善の為、予告なしに仕様変更することがあります。ご了承ください。